

病気を 知る

認知症は、病名として耳にしたことはあっても、身近な人が患うまでは詳しく知る機会が少ないのではないのでしょうか。しかし、高齢化が進む現代社会においては「いつ」「誰が」発症しても不思議ではない病気です。記憶力の低下や徘徊^{はいかい}など、それまでの穏やかな生活を一変させてしまう認知症について、正しく理解しておきましょう。

専門家に
聞きました



いこた としお
伊古田 俊夫さん

勤医協中央病院名誉院長。医師として最前線で治療を行う一方、講演会などを通じて本市の認知症対策に取り組む。

—認知症とはどのような病気なのですか。

認知症は、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりして、日々の生活がうまく送れなくなる状態を指します。一般的な症状としては、「物忘れ」や「理解・判断力の低下」などが挙げられます。

—具体的にどのような変化が表れてくるのでしょうか。

認知症は、新しい事を記憶できなくなるのが特徴です。言付けが伝えられない、バスに乗って外出しても目的地が分からなくなるなどがその例です。また、日付や季節、親しい人の顔が分からなくなる、服を上手に着られなくなる、ATMの操作ができなくなるといったことに加え、症状が徐々に進行するに連れて妄想や

徘徊といった行動をとることもあります。

—認知症はどのような原因で発症するのですか。

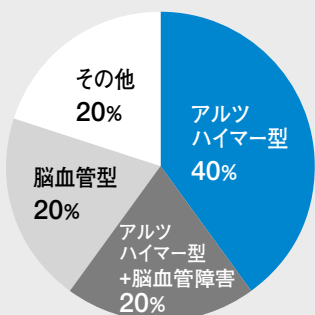
原因となる病気にはいくつか種類があります。最も多いのは、脳の神経細胞がゆっくりと壊れていくアルツハイマー病。次に多いのが脳卒中などの後遺症で発症する脳血管型認知症です。この二つで全体の約8割を占めています。

—有効な治療法や予防策はあるのですか？

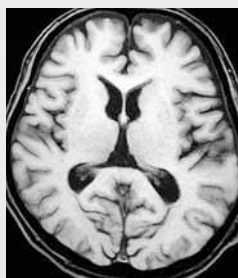
認知症を治す特效薬はまだありませんが、薬を飲むことで症状の進行を遅らせることができます。また、早期に発見し治療することが大切であり、適度な運動やバランスの良い食事などの健康管理によって、発症のリスクを減らすことができます。

認知症は 記憶力や判断力が 低下する脳の病気。

認知症の原因と割合



MRI画像で比較した脳内の様子



正常な人の脳



アルツハイマー型
認知症の人の脳



脳血管型認知症の
人の脳